

防災・減災事業

「あかぎ防災キャンプ」

1. 趣旨

前橋市国土強靱化地域計画の重点化施策の1つである地域の防災力の向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である中学生を中心とした「防災ジュニアリーダー」を育成する

2. 事業の概要

(1) 期日

令和3年12月18日（土）～19日（日）

(2) 参加者

前橋市立中学校7校 生徒11名（男子7名、女子4名）

3. 企画運営のポイント

- ①あかぎ防災キャンプの目標を「防災力を備えた、地域社会のリーダーとなる子供の育成」に設定することで、キャンプでの学びを地域社会で生かせるようにする。
- ②学びごとに振り返りを行い、グループワークを取り入れ、子供たち同士で考えを共有し、「中学生の自分たちができること」を発表する。
- ③前橋市防災危機管理課の協力のもとに、意欲的に学び、充実した体験活動ができるようにする。

4. 日程

	午前	午後	夜
12月18日 (土)	【訓練】「災害体験訓練」 【講話】「座学講習訓練」	【実習】「避難所開設」	【野外炊事】 「非常食・防災食」 【グループワーク】 「避難所での自分たちの役割を考えよう」
12月19日 (日)	【実習】「HUG」	「発表会」 ふりかえり	

5. 主な活動内容



【訓練】「災害体験訓練」



【実習】「避難所開設」



【野外炊事】「非常食・防災食」



【グループワーク】「避難所での自分たちの役割を考えよう」



【実習】「HUG」



発表

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足11名(100%) やや満足0名 やや不満0名 不満0名

(2) 参加者の声

- ・災害や防災に対する意識が大きく変わり、とてもためになった
- ・一つ一つの活動が順を追っている感じになっていて、一つ前のことで学んだことをすぐ活かすような感じでよかった。
- ・実際に地震の揺れを体験したことで、どれほど恐ろしいのかがわかったし、なぜ準備をしておくのかの理由も身にしみて分かった。
- ・貴重な水や電気をなるべく使わずにおいしい米を炊ける方法を知れたし、材料の節約に非常に重要なことを知れた。

(3) 成果

- ①「学んだことを周りの人に伝えたい。まず家の人に話すことでキャンプの復習をしたい。」「学校でも他の友達と意見を共有してみたい。」という意見から、学びを学校や家庭に戻ってからも生かそうとしていた。
- ②「今まで学んできたことと新しい考えを生み出してよい発表をすることができた。」「自分たちで考えて発表内容を作ったので、知識としてよく覚えられ、意識することができた。」という意見から、グループワークで考えを共有したことにより、発表内容が深まった。
- ③「実際に自分たちで開設したので、知識のみならず技術も身につけられたし、他人との協力がどれほど大事なのかも分かった。」という意見から、段ボールベッドや簡易テントの設営の仕方や備蓄用品の準備の仕方、HUGでの避難誘導の仕方を学んだことが防災についての知識や技術の習得に結びついていた。

(4) 課題

- 延期等もあり、2泊3日の内容を、1泊2日で実施したため、活動が凝縮された分、発表後の意見交換の時間が取れなかった。質問タイムなどの時間があると、より深まった。

担当：塩原・福岡・小林久